畧譜 十一

石原校
今井校
池原校

内閣文庫
和書
類 三六八
號 二一一八
冊 二一一
函 一五〇
架 八

共十六

二百十一冊内

現部共十五

390

内閣文庫
番號 和 36088
冊數 211(11)
函號 156 17

国立公文書館
National Archives of Japan

正秋 淡路守

武田信虎ニ仕フ[illegible]
[illegible]

按ニ

源姓

石原

清和天皇六代[illegible]大宰少貳守國[illegible]石原

助太郎守時末孫武田家族甲斐國住人

石原淡路守昌廣[illegible]

正元

石原新左衛門

母

妻 某氏

記録御用所

閣 390

一 禰津村々　天正十年禰津神領被成し　ハ五郎宮甲斐国ニ入…

武田信玄ゟ禰津村日之宮

権現様ゟ被下候百六貫九百文之

権現村

御朱印下ル　御加増　御朱印被遣　諏訪　依テ不移　依ル

右御朱印写

甲州禰津之内日之宮六貫文

八百文　証文被差候　之定

禰津村六貫八百文之拾文　並村を

大名方以上　山口右之定之人

乙原　昌明

定納合拾六貫四百八拾文事

右須賞不可有相違之状

如件

天正十一年癸未

六月二日　御朱印

石原新左衛門尉

甲州禰津之内　何原　弐貫四百

六貫文　国府　分

六拾文　組　被須之

致指他七兵衛向後名田内従安貫文
御判之内支配之人并組頭江
定之人数之事
右者致騒候者之後留置之
其段被仰付候上者急度可有之旨被仰聞候事

之件

天正十年
十一月七日
御判下
井伊兵部少輔
直之
大久保新十郎殿

宝暦武州八王子御鉄炮 御鉄炮方右 御鉄炮為
成候節之
御同心仕置之儀時者御城付之年月ニ
於八王子鉄炮組甲州住居之御代官江附置
四代官役之元和七辛酉年閏年九月病死七
拾三歳葬送之

両種 石原半之清

母 某氏

妻 武田信玄家臣 山下宗左衛門某女

台徳院様御代寛永元年家督父之跡御役之儀
駿河大納言殿江被為附罷在候寛永七
庚午年十二月十四日病死歳并葬地不知

一 童名不知
正房 石原清左衛門 石原庄三郎正通之祖
年月日不知 台徳院様御代家督被下置
時石原清左衛門と申候

某 石原清十郎
妻 山下宗左衛門某女
無書
台徳院様御代父寛永七年病死之後家督被下置
候処病死仕候年数并葬地不知実子
無之候付甥石原清左衛門寛永年中病死
甚五左衛門御奉公駿河大納言殿江
被為附武家江仕候

一式 石黒彦右衛門 初上半十郎

石黒彦十郎正利之祖

稚川 石黒十兵衛 始今ハ五郎左衛門

年号月日不知少年ニ而半人組ニ新規被召出 石黒氏之家筋

当付石黒勘右衛門ゟ書上候ニ付

石黒勘右衛門種続之祖

二式 石黒新右衛門 初上長十郎

石黒幸左衛門正種之二男

母 竹下八郎右衛門某女

須氏

妻 有賀半左衛門種道女

右清宗様御代父六左衛門病死仕候ニ付石黒清十郎ニ
家督被下置候清十郎病死仕実子無之候ニ付
石黒新右衛門若年ニ而勝手不罷成病中
より養子仕候願置候處被仰付候河大和守殿迄
之ニ付跡式被下置候御ニ付之家督相続仕候
石黒新右衛門儀中ノ組ニ而有賀半左衛門方ニ在之
年月日不知右半左衛門ニ而 御徒ニ 御留
御奉公仕候段々被仰付御作事方 御役

二歳ニ而伊予守殿江御渡被下之事ニ罷出
御譜代中絶之事ニ付而無之候而御目見仕
同年ゟ御勘定方（寛永十九年ゟ相勤申候）ニ被仰付江戸寛永十九
三午年月ゟ御切米百五拾俵被下置御勤
定方ゟ被召出候〇

寛文八年三月廿九日
[illegible]

大猷院様御代寛文四甲辰年（六月廿五）月ゟ御勘定
組頭被仰付（新規百俵）百俵加増被仰付合百五拾俵ニ被成〇享
保十乙巳年居宅類焼ニ付御書面焼失仕候旨

同年月御役料…
病気ニ付…門…辰年六月…病死歳六十
二本榎…寺ニ葬

正氏　石原新左衛門　初 平十郎

母　百姓八兵衛…女
妻　小笠原…　秋山十郎右衛門…女（寛文六年六月廿八日御目見）
厳有院様御代延宝二甲寅年十月…ゟ従

座候ハヽ御勘定○貞享三丙寅年十二月九日
父之跡式御勘定組頭○同（元禄元戊辰年七月十二日）戊辰年　月　日家
督○元禄七甲戌年十一月十五日家督御代官○
宝永七庚寅年九月十四日於大坂病死葬
于摂津国大坂正山岩寿光寺（上寺町）

女子
太田善
恒石勘四郎資俊妻

正勝
石原新十郎　隠居　松残
母ハ秋山十郎右衛門方頼女
二男
文昭院様御代（元禄六年十二月廿八日初而御目見）宝永七庚寅年四月朔日（五六）御勘定（御勘定）
（正徳元辛卯年三月廿九日遂勤仕六月十二日御代官被仰付）御勘定吟味役被仰付○同八卯年
年十二月廿九日家督○同年十二月十日父之跡
御代官○
有徳院様御代享保七壬寅年六月廿三日御代官被免

武者奉行御勘定衆被召出同御勘定衆与被仰付
享保〇同八癸卯年十二月九日御勘定頭
小普請入ニ而御蔵奉行被仰付候
何れ〇同十二年〇同十七庚寅年
年始御目見仕候〇同二十乙卯年
五月廿六日隠居〇延享四丁卯年四月
廿六日病死仕候九歳養父二代目相続

来
源次郎
秋山与移之

女子三人
一 某妻
一 某妻
一 某妻

正賀 石原新右衛門 初 万五郎

母 家女
妻 秋山吉右衛門養女
七 家督
天徳院殿代享保二十乙卯年五月廿六日家督

小普請○元文四己未年十二月廿五日御家人成○寛保
勤番○同五庚申年分年始　御目見○寛保
元辛酉年八月九日大番○安永二巳年六
月廿二日松平右京亮組与力○安永六丁酉年
七月廿九日於大坂在番中病死　歳五十九　摂津
国大坂一心寺葬　法名
妻女　実御小性組小林彦六郎正俊妻

正利
　実建部[illegible]男
　　石原新十郎　初[illegible]　三右衛門　千倍
　養母　[illegible]女
　実母　大井[illegible]信親女
　三右衛門

[illegible]
六巳年二月廿五日父二條在番中病死之後跡目
○安永六丁酉年十月八日家督　小普請○安永

七代寅年十二月十一日大御番ニ成、四年七月廿六日
同組与頭ニ成、同七年十二月廿六日小普請入

女子四人
養女 正利妻
小普請 山田銀次郎正方妻
大御番 市岡左内 葉山源之助勝平妻
小普請 彦六郎 小林勘七忠正利妻

正員
寄合 長田新右衛門正房江 石原宗次郎
天明元丑年十二月十九日 御年寄 二 天明七丁未年
七月朔日 御目見 時十七歳

女子二人
養女 正員姉妻
本多 米三郎
平岡 新蔵妻

女子
平井又四郎忠清養嫁 離婚 其後中沢忠又郎
京間 妻

女子

正脩
百之助

正師
亀之助

母ハ正利ヵ女

女子

正與 猪之助

校了

家紋 九曜三ッ柏 五七花桐

采地 二百七十石余 九ッ目三階菱

廩米 二百俵

源姓

石原

清和天皇ノ後太宰大弐守國ノ男石原

助太郎守時ヨリ出ル 武田家族 甲州人

石原大和守恭貴ヨリ五代豊後守政昌 恭昌 男

昌明

石原小四郎 右馬 源右衛門

母ハ小尾監物養女 実ハ石原治次郎正秋ヵ女 後妻ハ 妻ハ横井安兵衛忠ヵ女

属武田信玄同勝頼甲州没落以後
権現様甲州御入国之砌天正十壬午年七月於駿州
江尻ニ而　御目見則奉仕候同年十二
月六日御朱印頂戴仕同月十日御加増被下　御朱印
頂戴仕候右御判物写

甲州塩後郷之内山之於八貫文
荻窪之内七貫文　彼合拾五貫文
等之事
右如前々所被遣之
状如件

天正十年
十二月六日　日下部兵右衛門尉殿

甲州初鹿野郷年貢之内五貫
文　半貫文之所之内
七貫文　分之内小曲
之内三貫八百文　荻窪　彼合拾貫八百文
等之事
右為新恩所宛行不可有相違
之状如件
天正十壬午
十二月十日　日下部兵右衛門尉殿

一 ○表四十八頁ニ
肩書之通ニ
上泉ニ仕置候
候ニ

石原小四郎安昌附之

甲州御米場之役其後被仰付慶長六庚子年
甲府御蔵御留守居ノ時織田半右衛門役被仰付相勤候処
同十三戊申年正月廿一日病死七拾之歳於甲州葬
（今日墨跡十三年正月廿一日）（於城地）（一云依房七十八）
寺不知

安昌（一云依房）　石原四郎右衛門　初為之郎

泰昌

母　家女

妻（本ノ書）　小田切新右衛門昌次女

按忠長卿ハ
属し十二年の
同比より安昌
寛永八年死すニ
来折を年ハ元
和二年より駿府に
候へしめしといへ共
家ノ元和六年後
遠江国へ駿
府の旗本ニ為なる
本藏ありし由[illegible]
遠州十六年より[illegible]
本同年合[illegible]
將へ合ひ又家ニ
寛永元年より駿
治部ニ随ひ以て此義
宗徳寛永元年
八月廿日甲州ニ死
之忠長ニ遂河国
勿ニひ在州乃内
後紀云十年ニ而ニ
之貯合[illegible]
今ニ遂ニ依之氏

慶長十二戊申年月日不知家督ヲ同十八癸丑年（右家督ハ時に十八歳）
月日不知
台徳院様御代大御番ヲ大坂両御陣供ヲ元和
元巳未年渡辺山城守組ニ駿府
御番衆被仰付御城米御留守居
御番衆勤同十甲子年大納言忠長卿ヘ駿府
御附被進候　忠長卿ヘ仕ヘ（寛永二百七十八余之石）寛永九壬申年（八月廿日）
三月廿日病死六拾四歳（之主従）於駿府葬寺不知（駿府ニ於ニ）

女子　柳沢五郎兵衛信俊妻

昌忠 右近

昌隆

女子六人 某々ハ石原文八郎昌衆妻

大久保次郎右衛門某妻

日向三郎兵衛某妻

三郎兵衛
安治

泰品 石原惣左衛門 一 長右衛門 初ハ四郎左衛門 二 権平

母 内切新左衛門昌次女

大御番
妻 成瀬吉右衛門次重女

忠長ノ妻あらはれ……

大猷院様御代 寛永十癸酉年月日ニ初而御目見被

持方拾人扶持被下置〇同十九壬午年大御番〇 一説ニ十六歳

同二十癸未年月日ニ父家督無相違被下置百七拾俵

石旅上総国埴生郡之内右郡金田村根岸村

拝領仕候〇

厳有院様御代明暦二丙申年月日ニ御勘定頭蔵

百俵之
没寛文年三年ヨリ勤大坂御番被仰付〇百俵之

子年六月被大坂西少而消息上落城同

而大坂之為御進之日本ニ参府仕

次男三郎兵衛……

北条相模守同年次府……

御同母ハ　稲葉美濃守家　大炊ニ寛文元丑年
十月十六日新御番ニ同二寅年二月七日ニ小納戸ニ
同月廿九日惣領ニ而御改ニ付無之世大和守養子ニ
之儀ニ而ニ而御家深尾采女殿ニ而大文字ニ被
之別紙　御前頂戴仕候〇（于今所持）同年十二月廿九日ニ別
増知ニ而御預頂戴仕都合千石ニ罷成候〇
一　同月十七日布衣〇同三年卯二月六日　御使
（指物不〇〇〇ニ而持参）
御預〇同年巳月日光御奉〇同五巳年病氣
（留守）

二月ニ至り大御勤仕候ニ付同年十二月八日ニ組
頭ニ被成候　大猷院様小納戸御小姓衆
〇寛文九己酉年六月ニ大番〇同十二子年
（二條城ノ守衛ニ被遣候）
九月摂津　河内　丹波　播磨之國割ニ被遣候
同月同人今仕候〇
常憲院様御代天和二壬戌年二月十六日御奉行ニ
（十二月廿二日ニ小普請ニ入返塞）
同月〇日同人二年〇月小普請入〇
元禄三庚午年十月十四日病死　行年七十三歳　法名〇
（正月十七日）

龍興ハ弟ニ無嗣

字六之丞 大御番組山岡伊兵衛景信養
百人組 山條右京亮某養

信富 石原日向守嘉 初 石原 岩之助

母 成瀬吉左衛門重女

一 安喜

嚴有院様御代万治二亥年八月八日 御目見 七歳

恭孝 弘之介
品通 亀之介
末 源之介

恭誌 内記介
如真 半之介
女子
恭昵 権十郎

寛文十二壬子年六月廿五日従部屋住大御番入
常憲院様御代元禄三庚午年家督 十二月十五日 同十五丙寅
年六月廿八日従新番大坂御金奉行 同月寶永元
丙戌年十二月廿一日於大坂病死 大坂日蔵寺葬
后同二乙酉年山口向龍興ニ葬

廣通 石原惣右衛門 初 石原 寅之助 新番入

母 家女

妻　三九大年分　某野某女

後妻　山岸某甥　神谷忠兵衛正定女

後妻　小笠原　酒依平兵衛昌久女

常憲院様御代宝永四丁亥年二月廿六日家督　小

普請入　時ニ十六歳

有徳院様御代享保四己亥年十月廿八日大番ニ而元文

五庚申年六月廿八日御細工頭　寛延二年大坂御目付ニ而同年

播磨国姫路城ニ於テ大坂在番明組ニ分テ五月十三日より六月迄

大坂在番　同寛延二己巳年六月十六日播磨姫路城

西方ニ而…彼地ニ於て城門…

引渡役　明和二乙酉年二月廿六日西丸御広敷用人被仰付　日記作廿五日

同年十二月廿六日布衣　安永四乙未年七月廿九日

老免寄合…同九庚申年

…隠居料…

同年十二月廿六日病死　行年…葬

女子二人

大番　某　某之助　妻

滝尾

昌勝　庄十郎

紀伊殿御勘定…大年分

寛政二庚戌年十二月十八日病死

女子 能勢伊右衛門恭元妻 後離別

二 某 早世 源之丞

昌豊 民松 寛保二年七月 … 卒

女子

女子

女子 大久保辰之助妻

六 女子 小林友之丞妻

八 広寛 石原勘左衛門 初 金三郎 宝暦四年十五歳

母 酒依金右衛門昌□女

妻 小普請 能勢金三右衛門通□女 後離別

後妻 小普請組 藤谷□八郎 長女

宝暦七年相続之内

宝暦四甲戌年七月 父大須賀左衛門 跡目 相続

御目見 明和元甲申年十二月廿六日 従

御目見 小姓組 … 御目見 西丸 御番

年 □月□日 家督 明和八辛卯年十月 …

明和 … 大御番 … 二

正登 蜂屋勝五郎 後又三郎

大番 蜂屋三郎右衛門正則養子

女子二人

小普請 能勢伊右衛門恭之妻 後離別

小普請 大久保辰之助妻

小堀左兵衛 妻

廣族　石原四郎左衛門　寿之丞

廣般　石原源八郎
榊原十右衛門昌愛之養子

女子
實ハ梅屋勝五郎正光之女　廣資ニ養之ル

廣昌　母ハ主之介之妾　養之女

女子

女子

女子

、家紋之祖ハ新波の生族より[illegible]

按ニ

源姓　ニ云　百五拾俵　五人扶持

石原ハ義家流　足利支流　家紋　丸ニ杏葉　三巴

新羽家ハ一族廣瀬左衛門家氏より出

三河石原城主石原太郎左衛門　数邑領

石原治部少輔宣義ノ嫡子

石原義武　義章

弘治年中三州石原村の居城ニ在りて

東三河の軍勢を集め故実ハ扱得し

永禄年中

忠勝に従ひて上総国小田喜城にありてその後紙被村といふ所に忠次と号す丹後守輝信にいたりて二男吉左衛門政次は西尾勝左衛門の家に仕へ…

東照宮姉川にて合戦ありし時列のうちにありて勤
同じく三方原の時石川に属して二列石原村より
く五百石給
東照宮より長篠にて合戦の時右備の陣にいて
其の嫡子百度太郎三郎政次長篠陣味方原
ふかく手負死の時も甲冑の仰を蒙り死

高政
石原百度(づんど)太郎三郎 孝(?)
初年より武蔵を勤

東照宮に近侍し百度(?)書の永禄年中三河
一宮合戦の初陣して敵と戦首級を得る
ことあり永禄十二年正月廿六日
東照宮織田家より加勢として朝倉と合戦
ありし時朝倉の人々金ヶ崎の戦
ありし時同山の城を責るの時先人を招
酒井左衛門尉忠次の旗下に属し渡辺要害
の地をさし攻め討ち一味方を勧しその柵を破
堀をせまりて攻め討ち一番乗をして乱陣の
所名を百度太郎三郎と称す元亀二年

十二月廿二日味方か原より濱松城に出陣
の時甲州の士大将小山田右兵衛尉か勢
に近進する時百蔵兵衛をはしめ
家族ありの士三拾七人と共に防戦し
討死す　御感状を給わりしとかや

石原八郎左衛門　忠範

貞純

天正元年遠州濱松城にありし父の
家督を継き三州石原村にて百石給りしか
東照宮の御意にて御本丸近習に附属せり

長篠敵に附られし近習に奉仕の所敵を
退去後石原村にありて死

石原義太夫

高継

天正七年九月十五日
長篠敵退去の時父貞純大久保七郎右衛門と
親しくつく思ひに任せ病風にて月ニニニの間（貞純死）
高継幼年なりしゆへ七郎右衛門に頼りし駿東
御入国の後大久保相模守に頼りしその所

地ニおゐて小田原ニ但居○其後御浦信濃守代ニてと
いふ城を上ハ石原主へ申合御いとまいたゝきまて
より後京仕ニ而拾○其後寺沢中務大輔ニ
頼ら志て所化越後唐津ニ而死

忠次

石原平太夫

父と共ニ寺沢中務大輔ニ而仕○寛永十
年堀丹波ニ而家人とも別れて唐津上ニて
浪人して死

政次

石原吉左衛門

慶長十九年大坂冬御陣の時石原主ニ属し
地方頭百石○慶安御陣佐賀○其翌年在
与力○死○今石原源蔵等高祖 以下小普請

忠勝

石原源太夫　十歳

大敵退散ニて石原ニ而構ふ与力後浪人
今石原源太夫直良祖 寺沢中務大輔家人

大猷院殿の御時召出され
桜田の館に仕へ
常憲院殿に附属せられ
神田の館に勤仕し
延宝八年徳松殿の
御方にあつけらる西城に
勤む

政成　石原又太郎　剃髪号石残

正保三年三月召出され桜田館にて小十人となり〇神
田の館にをいて同月〇加役桂広儀月俸とも合
七拾俵〇元禄六年七月廿一日致仕〇宝（〇貞享元年御切米小十人頭）
永四年十二月廿九日死す八拾七歳法名宗伴
瑞輪寺に葬る

二
政博　石原喜左衛門
実は石原源太夫某が二男（四郎兵衛某）

一女子
石原八郎右衛門政孝が妻

延宝六年十月小十人〇元禄六年七月
十一日家督〇同八年十二月九日二丸火の番〇
同十一年十二月六日表火の番加役廿八口〇同
十二年八月廿二日西城目付加役二拾俵〇宝
永四年十月七日東大坂東海道筋
地震見分〇同七年九月六日新よ小普請
方改役〇同八年十二月廿二日加役五拾俵
〇正徳二年十二月廿九日定火の番（〇同五年十二月十九日目付の助）享保年中
病免〇今の拾七年〇享保二年十二月廿二日西
丸大番頭入（?）番〇職を辞し今の拾石の女

天英院殿より縮緬二巻拝領○同三年六
月廿六日御表右筆ニ成る（四季施代金拾五両）○同八年十一月
十九日精勤ニ付金弐百疋○同十八年十二月廿日
西丸江取○元文二年六月二日
所々御代官陣屋御用相勤候ニ付○同二年六月
廿六日度々病気ニ付差扣○同年御用勤候ニ付拝領
○延享二年正月廿九日老衰ニ付隠居○
同年十二月九日死 七拾四歳 同寺ニ葬
法名同寂

三 全久 始造酒 実ハ大坂御目付相勤石原小左衛門養子

四 博昭 文八郎 兄長完ニ養子

五 某 八九郎

一 女子 沢村甚右衛門久之妻

六 女子

七 女子

某 大谷ヵ妻

長完（サダ） 母八十五歳ニ而養女　石原小左衛門　友之助

享保三年七月十二日初而御目見（十歳）○延享二年
五月二日家督○同年十二月十日ニ病死半
人組○明和六年大納言様御附被仰付○宝暦九年
五月十五日死 五拾歳 同寺ニ葬　法名日勝

博昭　石原文八郎　造酒之助

妻 八木半三郎義定女
実石原小左衛門長博之男
母八木孫左衛門義定女長完男ありといへとも早世せしにより博昭嗣となる

大番八右衛門寛保元年
安永元文五年死去
同十一年死去

宝暦四年六月廿五日十七歳ニテ〇同八年
八月二日家督〇同八年四月晦日小十人組
〇同十二年十月八日御小十人組頭〇明和
四年九月廿四日同上〇同八年十月廿七日
小普請組支配〇同日御役料〇安永四
年二月廿九日御小十人頭〇同五年
四月日光御供〇同六年四月四日死ス
葬地同所寺〇葬ル 法名日持

頼寛 石原小膳 遠満之助
母ハ長谷川氏
寛永六年七月八日家督〇三番〇明和八年
十二月廿六日初見
寄合百五拾俵五人扶持
妻ハ上川井文次郎女

女子 松平某次郎兆之妻
女子 ... 次郎勝孫之妻
女子

二十 猶之助

一女子

母ハ須賀ヶ女

校了

源姓　家紋丸ニ三柏幡達

かしらに三の文字

石原

武田家族石原清治昌廣長男

新左衛門正光二男

一室ハ多紀熊

正房　石原清左衛門

始正親

信濃國安曇郡成田村ニ生

天正十年

東照宮甲州御打入の時初而來り奉仕ニ

二百俵

命によりて同國□□郡徳野村ニ移

吏より同國武儀郡今出村に居○今甚
住す其後同郡上有知村の鐵清洞に
同國多藝郡下笠村沼池あり
此所荒蕪之命をうけて地に移住し
以てより清水出て山堤築かく不被為
武井郷に移る元和元年荒蕪成下笠
村に住○慶長十七年より元和元年
まで年貢金許借成さとん寛永元
年御免下候○同三年

右徳濃殿
太藏濃殿 御父上濃の附く正福○寛永十
年五月九日死（美濃國多藝郡下笠村にて死）七拾弐歳同年美濃國上（武儀郡）
有知村清泰寺に葬 法名宗仙

正宇 石原清兵衛（實ハ某氏之男一重之婿となり養子となる）
寛永十年八月九日家督 父の如く居住
下笠村に住居○明暦二年六月十八日死
同拾弐歳同寺葬 法名宗薫

若狭 孫太郎 孫右衛門
松平和泉守家臣治右衛門義次之養子

女子
尾張家の臣河瀬
三郎左衛門某妻

正永 石原清左衛門 三左衛門
母ハ某氏
明暦二年九月(十二月廿七日)家督父付の如し○代官(時年十六歳)
同年韓使来聘濃州今須ヘ参候
并起宿船橋普請○延宝二年七月
十九日死之、積(?)同寺葬 法名日唱
妻ハ竹中叙(?)中右衛門女

正利 石原清左衛門 初三弥(?)
延宝二年十二月十日家督(時年十六歳)○同三年
二月十九日[墨消]代官父付の如し○天和二年
二月廿五日韓使来聘今須ヘ参候、駅(?)
起宿船橋普請○元禄十年三月廿八日於
府初見(?)同月廿六日巡検(?)○同十二年十二月
二日伊勢四日市□□役(?)○宝永七年
七月廿日勢州別長嶋新田御除堤築
奉行○正徳元年同月廿九日参府
時席(?)賞(?)時服二領○同年韓使来聘ニ付
尾張(?)山駅(?)四宿(?)田(?)同二年三月十五日賜(?)
賞(?)時服○同四年四月廿九日多歳(?)

同ㇾ勤○享保元年韓使来聘之節格別出
座候ニ付、同十年八月廿二日時服弐○
同年十一月廿一日

新中和門院御葬送御法会御用相勤候ニ付、同年
三月廿五日御褒美金子被下○同年十二月廿五日
勢別骨折御葬送御用相勤候ニ付○同七
年六月朔日京都所司代御褒美被下候
六月十日御所司代御用相勤候ニ付、金子被下候○同
廿四日出勤○同十七年八月十日

霊元院御葬送御法会御用ニ付所司代之節
十一月十三日御褒美金子被下○同年 林氏餞別
人組被下○同十八年八月廿六日時服弐○
同十九年九月廿七日御譲位御即位新
調御道具書物御所司代ゟ同二十年
四月十五日御褒美金子被下○元文二年四
月十三日

中御門院御葬送御法事御用相勤候ニ付、同年
六月金子被下○同三年八月十三日死 来所ゟ左之

八條東京都本國寺信敬院

葬 法名日量

妻 八左衛門肥後守氏成之養女

某 三弥

野間玄琢成良養子

富正

藤次郎 瀬左衛門

右京亮政屋か妾腹養子となり後分家す

正富

右京 小姓 御藤次郎 勘定 瀬左衛門

元禄十年二月廿八日初見 宝永六年正月六日勘定 正徳二年七月廿三日小十人組 享保元年十一月廿三日死 三十八 葬江戸本所松嶺寺 法名宗雪

正顕

右京 清左衛門 百之助 同 死助

妻 小倉又左衛門昌之女

享保元年十二月廿六日遺跡 同二年二月朔日初見 同七年六月十日 父の闕を継 同十七年八月十日

霊元院崩御送葬法事御用 父の代に同

十九年九月廿七日 御讓位御用

桃園院 京都和歌御使 御使者

御用 十継和斉 縁 元文二年

正月十三日

中御門院崩御送葬 同三年十一月二日

女子

尾張家臣中野

満薫之妻

某

松之助 後某

同年十月十五日江州山門両職諍論之往
遣学者ハ同五年五月十五日被成〇同
五年十二月廿日大和長谷寺衆徒遣学生
被〇寛保元年十月廿六日被成二〇同年
十月廿五日丹波永沢寺衆論ニ付〇同
三年十月廿五日大仏殿撞鐘廿八日被許
此度番船上船役方〇延享三年十二月
廿六日御譲位御即位御用〇同年七月
十八日薩摩ニ被
十郁初分御修理之時脳之迄紀綱之事
林大学頭より差上候紙絹様相〇寛延元年

韓使大津江戸館同年十月十九日被成
二〇寛延二年三月
東宮御元服御宮位ニ付同十一日山陵
二月朔日〇同年四月廿五日拝領物被下候七月廿七日
國宝治播磨寺僧衆ニ付十二月廿六日被
成〇宝暦五年十一月十六日子孫
紀伊国那賀郡之命之有之〇同七年十二
月十二日大和国添上郡添上郡論ニ付
〇同九年二月丹波国那賀郡并桑田
殿新発田祖税の外十分ニ面願出候

御○同十二年七月廿二日
桃園院御葬送法会○同十二月廿五日令
出勤○同十三年二月朔日四品位○同
十四年四月朔日令出勤○
禁裏より十餘種和歌御續書之趣
為○同十三年韓使来聘大津驛詰
○明和元年九月廿八日於御殿（一貫合力）○同四年
十一月十七日御上京之砌十五日出勤○同六年
九月廿一日御灌頂御受禅出開同八年
十二月廿八日令出勤

（于時七十五）
禁裏より花鳥之色紙三千六百紙仰出ニ付継
御續書之 但同九十歳之色紙弐十把
○安永元年三月廿九日大津驛兼寺
同所附近林近江國志賀郡那木
村運上書取之節大津附同出頭人
之儀○安永五年三月十二日死去（大津表ニて）
葬同寺ニ葬 法名日義

正面
右京増之進 因幡物

寛延二年五月十五日初見○宝暦
三年十月依病辞役○同七年
十月十九日死ニ十七歳同寺葬

一 正範
母八木氏 妻ハ小篠兵庫氏貞女
石原清兵衛 初 常之進
宝暦四年正月九日抱籍○同五年四月
朔日初見○同八年十一月十六日父正信ノ隠
○安永五年六月廿二日家督父跡の如し
戊戌○同六年正月朔日ニ而病届○

七月十日見習○八月十四日家督父跡○同月
十五日出勤○安永八年十一月九日
後桃園院御葬送法会御用同九年
七月廿五日命武役○同年正月毎日出勤
任御用○天明元年五月十一日
禁裏より花鳥和哥の禮綸旨を
○同四年十二月廿日御厩頭通り之待遇と命
さる○同二年十月十二日
盛化門院御葬送法会御用同四年

十一月八日令去役○同六年正月十五日
攝州川俣谷出張撰調之備之○寛
政元年正月十一日
禁裡御所方新調之道具之令渡而
用○同二年二月朔日
甚繕川俣出奔送之法令○御用二月晦日
令去役○寛政六年十二月廿二日死（去年〇〇）
六拾五歳同年葬法名日道

正通　石原庄三郎　高弐百俵
初正毅　母ハ安田氏正範之養子となりて其女ニ妻とす
実柳沢伊賀守保卓二男
安永六年正月七日出生○同七年十
二月十九日初見○天明三年十二月八日家
督相續○同六年正月十五日御勘定
川俣谷出張之家撰調父之代○同七年
三月十一日御代官父跡相続（時年三十九才）

女子　正通妻

女子　松平宇右衛門正紀之養女

女子

女子　松平豊後守家臣市田主計義宜妻

某　内記　父ニ先たちて死ス

女子　上林永二郎久建之妻

女子

某　捨之丞　母ハ正親之女

某　鋭之助

按之

源姓

石原

三ツ口百俵

家紋九曜　揚羽蝶　梅遠

かうら一二の文字

甲斐国住人石原淡路守政治之孫石原

豊後守政吉之次男石原[illegible]衛門義房

[illegible]男

義房　久右衛門

[illegible]

十二年二月十五日死

七十八歳

義勝　石原長左衛門

母　酒井讃岐守家来女

二 女子

一 女子 酒依氏の妻

三 女子 永井氏の妻

四 女子

五 女子 米氏の妻

六 女子 吉田伊兵衛某 後某妻

八 正盈 実ハ弟 又兵衛 久左衛門 石原久右衛門所[illegible]祖

妻 志村又左衛門某女

石原久左衛門後父石原久兵衛正房養子

正勤 寛文二壬寅年六月九日江戸

御切米弐百俵 小十人組 延宝八庚申年

十二月七日病死

浄徳院 葬[illegible] 法名[illegible]

天和二壬戌年九月十八日 [illegible]

同元禄六癸酉年七月廿六日病死 葬[illegible] 六十三

玉林寺[illegible]法名[illegible]

四代目

義方 実大田半左衛門好重次男 石原左[illegible] 初[illegible]

養母 志村又左衛門某女

実母 深田新之丞某女

妻 養父義[illegible]女

正徳二年二階級の支配仕立の時
長田院殿百箇日法事
之節法事令法記
等ニ而副而江戸
ニ而十二月廿三日
帳方之時分合金弐枚
時服二ツ被下

高岩院様御代元禄四未年十二月五日御年
寄ニ而同年十二月十二日家督小普請
○同六癸酉年七月五日桐之間番○同年八月
十二日御書院番○同七甲戌年閏五月六日大
御番○

有徳院様御代享保三戊戌年正月廿六日大御番組
頭山口加賀守組合○同十四己酉年
閏九月十八日病死五十八歳谷中玉林寺ニ葬
廿一了玄居

法名英玄

女子 養子義成方ニ嫁

義甫（ヨシスケ） 実石原太郎右衛門政能男
石原安右衛門
始 久之丞 改 藤之助

養母 石原安右衛門義勝女
実母 小普請 渡辺清左衛門正経女
妻 養父義成方女

有徳院様御代享保六辛丑年八月廿四日大番子○
同十四己酉年十二月十二日家督小普請○同廿一（時ニ十六歳）（元文元）
丙辰年二月二日大番○寛保元辛酉年六月
十八日小普請入（病気）○宝暦九己卯年四月廿六日大御番○
明和四丁亥年十二月二日病死五十四歳同寺ニ葬
法名利寂

一 女子二人 三 右同苗山岳長女之娘
　　　　　　長子 又兵衛妻
　嫡 一 小普請 藤兵衛郎大嶋 妻
　　義甫之妹

一 某　三歳　早世

四 義彰ノリ 石原内膳　始 今三郎
　　早世 実家田縫殿頭之御番
養母 元小山内 大岡吉山好生長女 実萬万女
実母 家女
妻 長又人萬甫女

惇信院様御代宝暦七丁丑年十二月八日舞御長子
日九年七月廿日初御目見
○明和四丁亥年十二月廿七日家督小普請（二十八歳）○安永
四乙未年八月廿日病死二十六歳同寺ニ葬
法名 玄秀

二 女子二人

一 岩子 義郁四男妻

二 宅間伴殘 寛篤妻

三 真野日向守勝元妻 勝元家ニ而…義博ニ

許由子人

一 某 民之助 早世
実石原保右衛門政志四男

三 義博 石原甚左衛門 弘 平四郎

養母 石原長左衛門義衛女

実母 町醫師 大石玄達二男女

妻 日向儀

二 女子

安永四乙未年十二月八日岩子家督（時年十七）○天明二

癸卯年十二月八日大御番○寛政七年十二月

母ハ女子之氏

義妻 限花

母ハ某氏

女子

粉光 滝次郎

田中庄五郎朽長之養子

某

妻平

女子

挍

源姓

石原

甲斐國住人石原清蔵政治之孫

石原小太郎政篤古次之二男

正 次右衛門

政勝　石原太郎左衛門 諱 之嫡

母　三河國住人 平尾右近某女

妻　御旗本戒能備中守某 山田九郎右衛門某女 天明四年 月

常憲院様御代小性組ニ被召出切米百五拾俵

○諸士年月不知
知行相...
...

○寛文二寅年月日不知加賀守信清○寛文
四辰年二月九日於神田御殿御納戸役加賀信
清卒○延宝七未年八月廿六日御勤仕○同八申
年八月廿八日御家人相成小納戸役加賀三百石地方
拝領且又御合力三百石被下置○同年十一月廿八日
布衣○天和二戌年三月四日御勤役被召出
除同亥年正月廿六日御小姓組御小納戸
○貞享二丑年二月十日二て尾州御留守居○同

三寅年十二月九日御小納戸○同己卯年二月
廿一日小姓書院入○元禄二年巳月廿一日大御番
番○宝永元申年十月廿六日病死七十歳
流去菩提院葬法名常覚

改貞　石原杉世　初名三之助

母　山田九左衛門　女

妻　中根左兵衛治維女

延宝八申年二月廿八日於神田屋敷
常憲院様江　御目見○宝永元申年十二月二日
家督小普請入（同月十二日養父死）○同二酉年十二月十四日大番入
○正徳二辰年六月朔日於二條在番中和州
吉野山目付御用（所司代松平紀伊守被申渡　稲垣長門守）同月十九日二条発足○十月
十八日京都町奉行へ
文昭院様御葬送御用ニ付御用御使番上京
仕合申来同月廿日京着　御使番入○享保十二（未年三月十一日）

一去辰ノ秋御番ニ付御褒美金一枚被下置
未年正月十六日御鉄炮玉薬奉行○同
十八丑年（三月廿日）九月十六日六十九歳ニ而病死同寺葬法名道圓

妻
三田助太夫女（森平次）
新番三田直右衛門妹養子

（大番吉）
実御同氏正祥次男　卯九十郎（初通）小吉郎　後平左衛門
石原猶母

政敏
嫡母　中根五左衛門法雄女
実母（子浪）佐野伊右衛門清政女

妻　養父政貞女

正徳五未年十月　日御養子○享保元申年

九月朔日

有徳院様江　御目見○同十八丑年六月二日家督（二十五歳）

小普請（同月十三日家督之礼）○同十九寅年六月十六日大番○寛

保二戌年正月十八日病死　日暮里本行寺葬

女子　養子政敏妻

政儔（トモ）　石原太郎左衛門　初　富五郎

母　石原軌母政貞女

妻　妻ハ小林丹左清正忠之女

寛保元酉年九月朔日

有徳院様江（同年九月十二日家督之礼）　御目見○同二戌年四月六日家督（廿六歳）

○[illegible]辰年六月十六日大番○宝暦元未年（延享元　寛延元）

同年八月西丸新番○宝暦十一巳年八月二日
西丸新番より割組○同十二午年十二月廿八日西丸
明和四亥年十二月廿六日大御番十四組より
新番○安永八亥年四月十二日御新番より割組
○同九子年月晦日病死五十四歳 法名宗寿 法谷寂性

正直 実家譜 竹内平右衛門 次郎三郎
浅草小普請組竹内小平次西生長子

伊兵 三宅五郎七郎 幸元
小普請三宅五平御 伊織長子 慶々

女子 母同 松平次郎左衛門信行妻

改氏 石原小左衛門正孝 初長三郎
母 家女
妻 小濱戸 松平要人改春女
安永七戌年七月廿六日初而御目見 大番組より切米五百俵
同年月日廿七 法名
○同八亥年八月廿六日家督○寛政二戌年八月廿七

於二条在番中病死三拾九歳京都[illegible]寺町
慈眼寺葬　法名澄徹

四
某

五
正甲　岡沢八松三郎
大番組岡沢八左衛門照常養子

六
政甫　石原権太郎　頼母
兄石原太郎左衛門政氏養子

二
女子　大番
平野源一郎定毅妻

三
女子　池伊家ニ行ス

政甫（ヤス）
實ハ政倚之男母ハ元沢氏政氏ニ嗣トナル
庚申　石原権太郎　頼母
養母　宗嗣ノ松平要人政之女
実母　家女
妻　中根十郎兵衛政盛之女
高六百石常陸之内
寛政二戌年十二月二日家督小普請（伊藤組）○同月
廿六日継目之御礼○同三年十月十五日大番安藤□□組
死去□月四日□□□□□八年□□□中里□

慶安元年…同年十月…
日八年…

源姓

石原　　家紋　丸ノ内揚羽蝶　輪違　寛永系図

三百石

政一 [illegible]
[illegible]
武田信玄ニ仕フ

政成 豊後守
武田信玄ニ仕フ [illegible]

甲斐國住人石原清治政治孫石原
豊後守政成嫡男

政吉　石原豊後守　初次郎三郎

母 某氏
[illegible]
初武田信玄ニ仕 [illegible]

[illegible]

校讃様江従父被召出御小姓 御本丸ニ上ル 後ニ御留守居

法名 万吉殿之後改 園御内知行 浮役仕之分

年月日

病死年月 龍誉 知行 高

女子 依田忠馬助盛妻

右次 石原太郎右衛門 初 太郎左衛門

母 天野某女

妻 平尾右近宗女

大坂両御陣

台徳院様江御附仕 元和九癸亥年 駿河江ニ而

附大納言 寛永九壬申年七月

大猷院様江 知行 弐百石

○年号月日不知

常憲院様江 ○病

死年月日不知 寛文十庚戌年十一月八日

病死八十歳 芝 院ニ葬

義房 石原小左衛門

年月ハ不知被召出 御蔵上新組ニ而今
石原杉之助改庶組

寛政ノ義治家旅ら
訓申らく之事
とあへきらる

真次
直次 之術語
初名
石原助右衛門
始終御門御用勤被 江戸出而 病気ニ付隠居仕
享保病死

右春
義治 之術語
石原伊右衛門 実ハ諸
母八平鹿氏の女 正徳四年十二月二十五日 (慶長百歳月給十日ヒ方文)
嚴有院様御代寛文年間御蔵組十人組上新組ニ而今ニ
兄助右衛門病死ニ付相續被仰付 兄隠病死ニ付伊右衛門
梓之節之事之趣文語書ニ付 新組ニ付 御切米ニ而
寛文七年七月廿五日死 月日法名不知様

政明 石原太郎右衛門
嫡孫惣組

正次
政勝 之術語
石原太郎右衛門 之助 石原猶母改甫之組
慶安四辛卯年十月四日被召出 御蔵上新組
江戸ニ而今石原猪太郎改南組

次春
石原市左衛門 六左衛門 後 豊後守
寛文八月日不知被召出 御蔵上新組ニ而 今石原
石原惣四郎正道之祖

茶
嶌之助改組
市郎兵衛

重之　石京清左衛門　初名太郎兵衛　石京宗右衛門二男嘉祖

寛文十二壬子年七月朔日　沖殿ニ新規ニ召出

今石京清左衛門改之

改明　実石京伊右衛門五男　石京太郎太夫　市次郎

女子　藤北右馬勝某妻

女子　服部忠左衛門長次妻

女子　高沢外記某妻

某　市左衛門

母　不知

妻　中村半左衛門某女　宝永七年十二月十日父之遺跡ニ而…

寛文十庚戌年十二月十日…召出…家督…

小普請入○[illegible]

天和元年二月二十五日

…病死　年二十九　…法名…

改能　石京太郎兵衛　右近

母　中村半左衛門某女

妻　四郎兵衛　後藤清左衛門某女

貞享四丁卯年七月十一日家督　小普請入○元禄十四辛巳年…大番○享保六辛巳年十八

同七年七月

月二日大御番ニ被仰付寛政○同十六

庚戌年五月十六日病死同所七歳同寺ニ葬

法名宏純

政隆　石原太平次

母　後藤清左衛門正信女

妻　小普請　安藤長兵衛某女

享保四年六月二十八日初見ノ時拝謁

享保十五庚戌年八月七日家督小普請○同十九

甲寅年十月十五日病死二十八歳同寺ニ葬

三十一歳

法名道卓

義甫　石原長左衛門　民部　花之墓

大御番組石原三左衛門義矩方養子

女子

実石原半右衛門政久次男

政志　石原弥太郎　初久太郎

母　安藤長兵衛某女

松平肥後守殿家臣

妻　石原清左衛門某女

町医師

妻　大石元達某女

女子　政志妻

享保十九甲寅年十二月廿七日家督小普請

入○寛保元辛酉年八月九日大御番ニ被召出　明和七庚寅年八月廿二日

御花畑奉行被仰付○安永二癸巳年十二月四日病死

六十歳　葬　牛込宗参寺ニ葬　法名浄谷宗施

政能　石原半次　後庄兵衛

母　大石元右衛門某女

妻　家女

明和二年七月初御目見

安永二癸巳年正月廿八日家督小普請入○天明八戊申年四月十四日隠居　時年三十　兄家

女子　田中六三郎桜井某妻離婚して後小濱大助ニ再嫁桑原藤蔵妻

女子　鶴　若林左衛門正義に嫁　後二ノ井某

政應　石原権之助　後改

小普請石原文左衛門政樹養子

正敏　昌栄　初従　桜井七左衛門　後改桜井所

二丸留守居桜井七左衛門昌忠養子

義博 石原甚五兵衛 五代目
小普請 石原周防義哉嫡子

女子
新御番 三浦宗三郎義門妻

政孝 石原政八郎
初政泰
母 家女
妻 小普請 中條平助惟長女

天明八戊申年正月十二日家督小普請入同十月
年十二月廿六日 寛政元年四月十九日 御目見 同九丁巳 寛政二庚戌年
二月十二日大番入 同 同月 三年癸亥年十一月六日 御村
支配 御書 今 寛政四月七年 三月 納
御用 文化元年八年 三月十七日 大番 御 同月 五年
十二月 大番 今 寛政 年 三月

女子 三浦宗三郎義安妻

某 早世

女子

女子 実ハ石黒右馬政恵ノ女政蒼ノ養女トシテ石黒西ノ脇
政之ノ妻トナル

源姓
校ノ
石黒 高二百[illegible]俵
家紋丸ニ揚羽の蝶
甲斐國住人石黒要之進政晋

政房
石黒右馬
母 上州太田城主太田図書ノ女
二妻

厳有院様御代御台所衆ゟ御膳所ニ被成
常憲院様ニ而茂相勤 御納戸御用御広敷番被召
被召出勤仕ゟ御膳所年月不知神田御殿 御広敷御用相勤
御目見之節被仰付候○其後寛年月不知文番ニ成○寛
文十二壬子年二月廿九日病死年六十七歳法名
不知

正盈

実ハ山本弥五兵衛清治二男 文五郎 後半之丞

母某女
妻 青山弥兵衛某女

厳有院様御代寛文十一亥年七月日不知神
田 御殿ゟ新規被召出 高廿俵十人扶持○延宝八
庚申年十一月日不知
浄徳院様御附(元禄二年)ゟ小十人組○御小納戸(?)
後小普請入○元禄元戊辰年十二月御勘定○

日十六年十二月廿二日加増あり……廣徳米百石……

寶永七庚寅年三月より小十人頭相勤○

享保十二丁未年二月廿一日病死年齢七十七

葬地小石川法谷春英

武勝

原氏兄弟

今は原氏名跡相続

女子

太田伊兵衛妻

汝久

武州多摩郡村

実須田太郎兵衛二男

原氏養子

隠居後 晩山号

養母 原長兵衛女

実母 某女

妻 某女

後妻 某女

常憲院様御代元禄十一戊寅年七月より御勤

寛文○十月九日廣徳米百石……

……

文照院様御代正徳二壬辰年七月 御勘定

但[illegible]○同三癸巳年十二月[illegible]

[illegible]

有徳院様御代享保十六辛亥年二月[illegible]

[illegible]

隠居 但[illegible]○同年七 壬子年 [illegible]代官○

延享二乙丑年六月[illegible]病免小普請入○同三

丙寅年[illegible]月[illegible]日隠居○寶暦十一辛巳年十二

月[illegible]日病死八拾[illegible]歳 年[illegible] [illegible]院[illegible]

法名[illegible]浄[illegible]

---

正植 樹

石原文左衛門 先改久[illegible]

女子 実ハ須[illegible]氏ノ女 正盈[illegible]養女[illegible]市[illegible] [illegible]嫁[illegible]

女子 [illegible]妻

正植 樹[illegible]

実石原久左衛門正盈次男 石原文左衛門 米次郎

[illegible]石原[illegible]女

[illegible]女

室

有徳院様御代享保十一丙午年二月ゟ召仕（八月廿日）
子○同十二年十二月十六日初見へ 時年十四歳
惇信院様御代延享三丙寅年閏九月ゟ御暇
小普請○宝暦七丁丑年十一月晦日御暇小十
人組○同九己卯年閏七月十二日病死小普請
入○安永四乙未年閏八月廿八日病死六十八歳
法名元隆

中西能登守昌院 葬
女子 元野市十郎正院妻
浪志 実母 久右衛門
享保十九甲寅年十月十日元服
浪袋主子
女子 本間新右衛門昭妻
柳雄 母同
元文二丁巳年八月廿六日同年十月廿七日 柳蔭

正親　半助　小林吉左衛門忠賢之養子
若年
正達（ミチ）　磯五郎
女子弐人
　一人　高井弥十郎正紀妻
　一人　長谷川多宮又八郎留妻
政[illegible]
政蔵　石原文次郎
　安永二癸午年十二月八日部屋住ニ而病死
　石原[illegible]後志智
　石原猪之助之死去ニ而名跡依
政恵
　安永四未年七月八日遠藤七兵衛元年七月十七日小普請
　小判[illegible]二年六月[illegible]後[illegible]
　寛政七年十二月廿一日[illegible]九法名[illegible]道果

女子　政恵之妻
　井上[illegible]　町医師　大屋[illegible]妻
　一人　妾

滝川院殿御代安永四乙未年七月八日若年家督
小普請○天明元辛丑年十月十七日西丸書院番入
小十人組○同二壬寅年六月百新番[illegible]
寛政五年十二月十七日大[illegible]二日七年[illegible]死
二十八歳同号

政祥

政弘　半右衛門　石原半右衛門
父ニ先たちて死す

政騰　釜次郎
寛政七年四月家督　時十七歳

女子

女子

政貫　斧之助

女子
石原政八郎政孝か妻

校

寛　四百六

源姓　家紋　丸ニ三柏　五七角桐　丸ノ内替松

石原

清和天皇ヨリ出大宰大弐守国五男石原助五郎宗時末孫武田家族甲斐国住人石原淡路守昌庸長男石原新左衛門正元孫

種門

石原平左衛門正種春二男　養子　石原十左衛門

母不知

妻　武州玉郡遠井村浪人小川五左衛門娘

石原十左衛門種門　父石原平左衛門種春

病死之節倅ニ跡目被仕候処無程

駿河大納言殿　御不仕合ニ付兄新左衛門十

左衛門共浪人仕新左衛門儀ハ其節御留

被為勤候半左衛門方ニ掛り罷在

申候十左衛門儀も浪人仕候処石原清左衛門

妻伯母ニ而御座候ニ付罷出掛り罷在候

以後新左衛門儀右御目見ゟ御番入仕

罷在候　御目見則御番中方江拝見相

平伊豆守殿江被仰上候而御番入之儀も

御願申上候処是又難成候ニ付此段御勘定

方御奉行ニ仕候而御留候ニ付御勘定方ニ

御取成ニ付両御番ニ倅共罷成

其以来右様可申頼成之聖ニ而仰付
出之通相頼新右衛門儀も御勘定方ニ
而召出御奉公仕十右衛門儀も甚以難
有御事之成奉存候召出之節之儀ヲ
奉頼候如

大猷院様御代相勤御書入之節ニ而召出候処
右衛門儀以来平勤定ニ而出御書方ニ而
召出之例（元禄四年十二月廿五日ニ御召出て）其之方ニ以場所ニ勤目見以小十人

○これは右あり而て出勤之事と
覚ゆ未年十二年十月十七
被仰あり而家意元年六
月二十日通番其後番並正
之節より召出候処証拠二に
三月二十九日より出之（三）同十二
月二十て小十人に引し慶安
百俵月俸十七人扶持貫文
九年同十月十八日ニ一ニ而
金三十両拝領之後白
之拝し小十人相勤候
元禄元年死人年後

一慶安百俵月俸十七人扶持○
組御奉公ニ而仰付候条別而難有奉
存候而以後御書相勤三十五年皆
勤御役以御定金拝領○元年
常有院様隅田川ニ而御鷹野之節成以前
被仰付候　還御之節御船之御用ニ而
御給ニ二三町欠庚り夫ゟ御先ニ欠援
以前御厩ゟ怪我仕御役不相成ニ付
御側衆松平因幡守殿ニ而仰以来十右衛門

後御用ニ而欠壱挺我仕候ニ付御抱様ニ
番頭ニ而御中役引迎甚生仕候ニ付年
々仕小普請 病死 年月日不知 葬地不知

安種 勘右衛門 吉左衛門
母 小川五左衛門妻女
妻 北田伝助之娘 山本伊右衛門妻女

延宝六年三月二十九日 日八年二月二十五日ニ而廩米百俵月俸十口之御分
巌有院様ニ新ニ被召出 御小十人 ○御番
○元禄二年巳四月十三日 桐之間御番 ○同年六月七日 二百俵被下
三百俵之部ニ而御加増 ○同四未年閏八月
五日 御小納戸 御番衆 ○同六酉年正月
七日 御加増三百俵 ○寶永
二年十二月廿一日 寄合 ○正徳二年
巳十二月 参州矢作橋御普請御用 ○同
四午年四月 江戸ニ而 被召出 卯

時服三領拝領○同五年未四月廿六日御帰府
御目見○享保二年酉五月十五日御[illegible]
留守居番○同三年戌二月紀州
淨圓院様御邑ニ付御附御用人被仰付 拝領○寛保
二年戌正月廿一日老免 寄合 御留守居次 時服三○
同三年亥三月十一日死 年八十七 芝麻布 法名日種
二本榎上行寺ニ葬

種利 兄安種養子 市郎右衛門

富正 養次郎 瀬兵衛 實ハ石谷七左衛門正利三男 安種養子
實石原十左衛門種利二男 故ありて父正利[illegible]
市郎右衛門

種利
母 山本伝右衛門娘女
室 母浪人小川五左衛門娘女
元禄十四年 家督
元禄十六癸未年三月廿八日
常憲院様ニ御目見○寶永七庚寅年五月
廿六日御番入 御小性組○延享二乙丑年八
月朔日老免 小普請 寄合 金二枚○同年十二月
寛保二年五月三日 遠慮

廿七日隠居〇寛延乙亥年七月十一
日死年八十四葬地同寺法名日諦

種勝
長次郎
種利實子

政繁
又六郎
御書院番杉浦弥左衛門
寛政四年出仕
杉浦與七郎之養子

女子四人
大番永田吾次郎隆義妻
御花畑番横山左門知恵妻
小普請組武藤織部安久妻
同
越智與三郎直道妻

享保十六年四月
四月廿日生

種勝
實安種二男
彦次郎
妻
大津左京亮女

勝種
寶暦五年
延享二乙巳年十二月廿七日
寛政四年
同
四百石
種政
二百石

壽ニ依テ種利嗣ニ依テ也　小姓組ニ入○同年閏十二

月十六日御小性組○寛永九己卯年六月廿五日遂

拝謁○同年十二月十五日御書院御目見ル

黄金壱枚○同十一年己年六月十日是年ヨリ

御奉公○[redacted]明暦元年九月十五日死 五十九才

葬地同所法名日傳

石見守某妻

石原市之丞某姪

女子

種政

石原十左衛門某祖

石原七左衛門某組

実ハ御書院番杉浦昌明竟通二男

連吉

種森

大御番杉原四郎兵衛正芳女

寛文五乙巳年六月廿四日養子○同十四

女子

甲申年正月十四日死

渋谷某家臣水野某妻

種純

連吉嫡男

勘兵衛

初喜八郎

寛文三年

本國相模

母大御番杉原四郎兵衛正芳女

妻小笠原某山方五郎清左衛門女

寳暦十四甲申年二月十七日種勝新ニ給テ
嫡孫爲部屋住○安永元壬辰年十二月
三日初御目見 小普請 ○同五丙申年正月廿六日御
小性組○同八己亥年正月廿九日吹上御庭
大的上覧時服二拝領○天明五乙巳年
九月十八日於御前射藝同廿二日時服三拝領
女子 大久保五郎左衛門忠一妻

（同七年十一月廿九日文字（？）森川出羽守俊孝嫡 …… 十二月十一日）
（同九年十月十三日 …… 天明八年十二月 …… 死）
（同四年十二月廿六日大的射手 …… 寛政二年九月四日 ……）

某 長八郎 夭
某 金吾 〃
某 卯之吉 〃
女子二人
種久 十左衛門

控 一

禄高二百石

源姓 家紋 丸ニ三柏 子ニ六角桐 丸ノ内ニ蔦紋

石原

清和天皇ヨリ出太宰大貳守国五男
石原助五郎守時末孫武田家旗甲
斐国住人石原淡路守昌庸長男石原
新左衛門正元孫代々之譯書家元石原
勘左衛門家筋ヨリ認出申候△

種正　石原市之丞

一 小普請石原市郎右衛門種利二男
母 小普請西尾左大夫某女
妻 御小性組伊丹弥一郎勝繁女
實父 石原市之丞儀若後(?)石原市郎
左衛門養子相願候之處病死ニ付(?)石原喜
次郎儀右市郎左衛門苗跡(?)之(?)申付
子仕候(?)旨被仰付享保十六亥年

四月四日跡式之通被仰付實父市之丞次
男ニ相成ニ〇延享二乙丑年十二月廿七日
養父 市郎左衛門跡式之通隠居被仰付
高六百石之内(?)苗兄石原喜兵衛次郎ニ
四百石高智(?)ニ市之丞貳百石不〻 [illegible] 實父
市之丞ニ相知行市之丞小普請〇同之
三丙寅年六月十五日御目見〇寶暦
七丁丑年九月廿六日大御番〇安永

六丁酉
同年甲午年六月十九日大坂於城内病死 享年七十 攝州
山ノ山長谷村壽光寺葬 法名 良順道

某
正之介
実ハ本多七左衛門重永二男 種正之養子となる
宝暦十二年十月形部目見へ家督を継ぐ
七右衛門 始栄一郎

種映 年四十八
三百石 攝津国大住郡之内
実山岡七右衛門景房二男
養母 伊丹修理亮勝重女
実母 某女
妻 種正女

明和六年十二月廿九日 贄養子
安永六丁酉年九月七日 小普請 廿九歳
天明六丙午年五月廿六日 大坂… 寛政
八年五月廿七日病死
女子三人 [illegible]

種徳 次郎吉
母 八… 氏

朱　巻之二十

源姓

三ノ巻紀 [illegible]　慶長五年 [illegible]　月峰六日

石原

家紋　臨遠ノ二ノ文字　丸ノ橘[illegible]ノ蝶

先祖石原豊後守[illegible]武田信玄[illegible]

仕甲州没落後[illegible]

寛永中石原豊後守二代

初宗　大祖

武田信玄とくひ　旗頭[illegible]

重宗

二ノ家　母ハ未氏

石原[illegible]助

[illegible]

[illegible]

此證文ハ家康回ニ而…家康真筆
…台徳院殿…御国…両様ニ
…寛文八年
三月…玄溪

八半年十二月〇病死 年廿五 号昌院 [illegible]

孫助 八左衛門

吉宗 母八木氏

寛永十九辰年九月 元和元 … 卯年…

安部河津 [illegible] 〇 … 年 上州 …

おかつく [illegible] 様 [illegible]

合〇

[illegible]
東照宮…大坂…台徳院殿…元和九年…二月…寛永十六年…大猷院殿…寛文二年…浄古

渡辺大助 [illegible] 養子 … 寛文十二年 … 番

千 渡辺…〇 寛文二寅年十 [illegible]
寛永十六年 … 五十…

号 病死 同年

八郎兵衛

吉保(?)
寛文二寅年廿一…九月 … 〇 [illegible]
同三年 十二月 … 同八年 十月 …
…〇 元禄 … 年

延宝六年十二月
…
合百石…

女子
女子

[illegible] 十六 病死 同年

女子
○○大膳亮家臣
○○伊○馬○○妻
正徳五乙未年十一月廿三日卒
法名○○浄○

勝成　孫助
元禄二己巳年十二月十二日家督○同年
申年十二月十二日○○勤○○○○
享保元年二月廿二日○○○○○武蔵○○常陸○○○四人○○○○○○之
享保二丁酉年十二月廿○日病死同月
小普請入
年五十七

女子
兄義為ノ○女

義為　母ハ某氏
太助
享保二丁酉年十二月廿九日家督○同年
小普請入
同年十二月廿九日病死同月
年三十六　法名○○宗欽

孫助　○○○○○○○○○○
実山岸○○○○次男
義居（モト）　母ハ義保ノ女○○○○○○○○○○女○妻○
猶之丞
享保七壬寅年十二月廿五日家督○同日
養子
小普請入
宝暦九己卯年十一月廿九日病死
同月　年六十六歳　法名良英

女子　実ハ保成ノ女義為○女
義居ノ妻
享保十五庚戌年五月十九日卒

義路　母ハ義為ノ長女
吉之丞
宝暦九己卯年十二月廿日家督○同日

義永
孫右

安永七戌年六月廿七日隠居

御番　高田忠之丞

同年右地方上座御用

名清

天明六午年六月廿三日卒　養子

義久 政助
実ハ義苗二男ニ而義路ヶ嗣トナル 父ニ先立テ死ス

宝暦十年五月 西丸書院番 同十一年八月二日 布衣
浚明院殿御附[illegible] 十二年
[illegible]西丸[illegible] 十二月
[illegible]御納戸頭 十四年
宝暦十一年十二月[illegible] 明和元年
上[illegible]相[illegible] 同年[illegible] 廿八歳
[illegible]七年 天明
[illegible]月[illegible]死 法名[illegible]七歳

天明七年十二月十七日家督 寛政八年七月[illegible]死 年三十[illegible]法名[illegible]

天明六年[illegible]
母[illegible]
[illegible]
義清
卯之助
実 徳兵衛豊造四男
[illegible] 寛政八年[illegible]十二月[illegible]七月[illegible]死 廿七歳

義利 孫三郎
実 徳兵衛豊造三男
母[illegible]
天明八年十月四日[illegible]寛政三年五月[illegible]
死 廿六歳 法名[illegible]

義陳 孫助
実 戸川[illegible]平八郎[illegible]
母[illegible]義利[illegible]
寛政三年八月[illegible] 同十二年七月[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]地方

高六百石
家紋 丸ニ揚羽の蝶
脇差ハうらに二ツ文字
三ツ巴

藤原姓
石原

甲斐国住人石原清治政代
石原六郎右衛門 右衛門

豊後守 初市右衛門 六郎左衛門

次春

文政二卯年十月六日 家督
六十六
石原ノ内 三百石 廿六 文政元寅年
廿八日 御目見 卯七年七月

~~同年十二月廿六日…… 先逝…… 常憲院…… 天……~~

吉乃年少十人番頭○二世寺領分也本年六月
廿九日依同月○承応[illegible]
申年十月七日小十人組頭○天和二戌年
六月朔日大番組頭○貞享元子年
七月廿六日桐間番頭○同二丑年六月
十日御番衆○同年二月廿五日小普
請組○同四卯年六月廿三日桐間番
頭○元禄二巳年正月廿二日
務同番頭[illegible]○宝永
元申年正月十六日持筒頭○同三戌年
正月十五日御役御免○同五午年二月
廿六日寄合○同年八月十四日病死
○同[illegible]七十二歳[illegible]葬
一常憲院様御代[illegible]字[illegible]
[illegible]

家次　三水父[illegible]死
次春[illegible]
実ハ[illegible]

次家
市佐島
[illegible]

元禄八年七月廿二日生福島人卅日十一歳

寛永五子年七月廿六日嫡孫承祖○同

年十一月廿七日家督相続○享保元

丙申年七月廿四日病死六十九歳同日葬

二十六日法諱　法名全智

実石原氏娘男兄父之實

市九郎

初ハ良水

岩南

次右

母八木氏次家之娘也二ノ女

享保　年九月廿七日生

（寛延二年十月廿二日初見）

督○元服之後○寛暦二申年十月

九月　実之…二月…日○同戌年

二月十四日病死五十二歳同日葬

法名性行

正圓

左右

女子

寛暦　戌年十二月廿七日家督○元服

（日六年三月廿一日初見）

二戌年十月十日病死五十二歳同日葬

法名圓慶

元政

民次郎

岩次

岩郎

二十六…

女子 安部駿河守信展妻 [illegible]

義正 吉之丞

女子

[illegible]宗家を継[illegible]元来[illegible]養[illegible]

天明二寅年十二月十七日家督。同[illegible]辰年十八（三月廿一日初見）[illegible]同六年壬十月[illegible]四年[illegible]寛政元[illegible]十月[illegible]八月十九日死。四十四歳。同[illegible]法名元曉

正道 捨四郎

寛政九年十二月[illegible]八歳 十二月廿二[illegible]

将軍家に[illegible]

正芳 [illegible]人

正房 花次郎

正[illegible] 富松

源姓

石原

甲斐国住人石原[illegible]

清左衛門

新五左衛門

三百俵[illegible]

家紋 [illegible]橘[illegible]

[illegible]の[illegible]

正久

[illegible]

寛文十二子年七月[illegible]

[illegible]八年十二月[illegible]

浄

[illegible]

桂昌院殿御広敷添番 貞享二年十二月五日 同小普請入 寛永二年 十二月五日
光現院殿御広敷 十月十五日 享保二年八月十三日病死
年六十弟昌院ニ葬

某 十所左衛門 父ニ先立早世

女子 石原某之妻 改名 智光院

政定
正徳元年九月御院組入
享保二年十二月廿日家督相続
同小普請入 延享三年
同年[illegible]日〇宝暦二申年
[illegible]

享保三年三月廿六日
光現院殿御広敷添番
十二月七百小普請入
同九年十月御広敷添番
寛延二年十二月廿六日
御足奉行 宝暦二年
三月十二日組頭 寛延元年十月
宝暦二年十月廿日 六月廿七日死 七十六歳

次正 岩之助 主水 市左衛門
石原市左衛門次家之養子
明和年十一月廿七日病死

正元 家督 ...
清白 五十郎 清次郎
信親

元泰
宝暦十三年八月五日二男 初代
明和二戌年五月廿七日家督 寛政元年 十二月廿二日御勘定
三六月十二日支配向支配取扱

女子 諏訪三十郎正能之妻

高百俵五人扶持

元政 武次郎
実ハ石原左膳正国之二男 ...

元英 栄治郎
実ハ加藤佐々木某ノ元則ノ二男元安養子ト為リ其妻ノ妻トス
父ニさしつかへ出ル
妻ハ元安女

女子 元英ノ妻

正之 正之助
母ハ元安女
妻ハ石川政八郎政孝ノ養女

女子

三 様々

源姓 今井 高二百俵 紋 剣菱 花菱

新羅三郎義光八代武田信武后河内守信家十七代之後流今井孝清信盛之男
母ハ今村市之助信正女

別房 若狭守

安永辛卯十月廿九日
清揚院様御小姓組ニ出ル後御納戸組（廿五歳）
の近寄巳 未二月廿八日死年四十二法名
小石川傳通院の昌林院ニ葬ス

妻ハ河北長三郎通友之女

女子

信盈（エイ）　忠右衛門　七之丞　新助

貞享元甲子十二月廿六日家督御小性組

○元禄二己巳二月九日御小納戸○同十巳

辛巳十月廿七日死

信精　忠右衛門　長八郎

弘信　源之助　右近　初信峯　今井右門信猶之祖

稲田ノ紋 [illegible]

女子　中嶋重左衛門盛従之妻

信標（ヒヨウ）　母ハ江町七郎右衛門某之女　主庫　源太郎　後仕甲府

元禄十己辛巳十二月十二日家督○甲府

勤番○寛延(?)六丙子九月廿六日退隠八

戌寅七月十八日死

妻ハ中嶋七右衛門包孝之女

九年八月廿七日甲府 [illegible] 武田信玄 [illegible] 八年七月十八 [illegible] 甲府乃津 [illegible]

女子　窪田伊右衛門正福之妻

女子

女子　浦野十郎右衛門信英之妻 [illegible]

信寿　初信臺　信豊　母ハ包孝之女　主庫　右源太　政宮 [illegible]　後仕甲府勤

寛延六丙子九月廿日家督○甲府勤

番○天明己巳(?)十月十八日隠居号宜政

母永元年五月十一日 [illegible]

六年七月二十五日死八十二歳法名 [illegible] 中道

妻ハ土田七郎右衛門安福之女

女子

信中　初信易　母ハ田中氏　主庫　内藏助　万三郎　岩三郎

天明己巳八月十八日家督 [illegible]

六月廿三日死八十三歳法名真仁

妻ハ依久同祖助信奉之女

信忠　全藏

信舜　半十郎　弥平郎

政友　盛之助　惣右衛門

三宅省之丞政英ヵ養子

女子 豊原為之助勝英妻

信言 孫三郎 左源次

信秀 斧之助 兄信中ヵ養子

信秀 斧之助

実ハ信寿ヵ四男 母ハ先祖ヵ女 信中ヵ嗣トナル

天明七年九月十日逝ス 法名[illegible] 卅七歳 後[illegible]

家譜新田庶流ノ義宗息ニ 後胤今井太郎義宗 三浦ヒ又五郎惟義ヲ 祖トス 詳ナラス 文今井 平右衛門ノ系 武田家ニ仕 へしより[illegible] 田記続系[illegible] とも 武田記ニも[illegible] もと照応ナラす[illegible]

一 百六十俵余

源姓

今井 家紋 丸ニ花菱 丸ニ三ツ柏

今井太郎義宗ヨリ出 平右衛門某ノ孫

[illegible]某 忠兵衛

政宣 忠之丞

安永[illegible]年卯六月廿九日 桜田御殿 家督 百俵

文化六丙午年 [illegible] 組[illegible] 二

甲寅 [illegible]

[illegible] 八甲十二月廿二日 死 [illegible] 小日向

[illegible] 葬

致仕 享保六年八月六日
病死 年七十六
法名 宗泰

政家 源之助
母ハ桜井忠左衛門政秀女
寛永元年甲子生 元禄七年二月十日家督
享保巳巳亥八月七日死 年七十六 法名 徹寺

安之助
女子
同上 妻ハ

政備 忠助
母ハ 享保巳巳亥[redacted]月四日 家督
十二月七日死 法名

女子 見政勝ニ養女
女子
女子 妻
法名 廣善

政武 忠之助 初 和助
実ハ 享保八庚卯十二月廿六日家督
十八日死 四十二歳
法名 達

女子
妻ハ政勝ニ養女
実ハ政長ノ女 政勝ニ
政武ニ

政義
妻ハ
宝暦九年 九月十日死 四十二歳

宝暦九年十二月十四日

實ハ今谷新兵衛貞元二男

## 政之

忠兵衛 初元次郎

母ハ今谷平右衛門某女 政之[illegible]養子となる

二百[illegible]俵 百三十七俵

寛文十一年己十二月遺跡を継 小普請

安永元年十二月廿六日御中人組 同四年九月[illegible]

延宝二年九月十二日大番 同四年十二月十二日[illegible]

元禄三年三月廿九日卒 年七十三 法名[illegible]

妻ハ杉園九八郎古堅か女

## 政忠

第之助

母ハ古堅か女

寛政四年二月十八日卒 年十七歳

妻ハ松浦求馬分貴浦か女

## 政通

第之助

## 政定

秀之助

広吉

## 按

[illegible]百治元年十二月五日 百俵賜 三百俵
[illegible]日年十日月
大番[illegible] 三百俵
百俵加増[illegible]百俵

## 源姓

### 今井

家紋 丸ニ打敷 丸ニ井桁 鋸井桁

二百俵

新田又右衛門政氏後胤武田家軍

奉行今井刑部左衛門信次同世四郎

左衛門利次嫡子

## 勝次

今井三郎右衛門

剃髪宗休

寛永十年七月十一日百石と米に[illegible]

同月百俵あへ扶持ハ明暦元年十二月

十六日大番に加へられ百俵の月俸をたまふ
○寛文十年十二月七日病により〇同十一年
七月十二日ふたゝひ勤仕し貞享二年十一月廿五日
死す年七十某下谷龍谷寺に葬る

則次　今井三郎太郎　又左衛門
母は某氏　家督　可休
寛文十三年三月生る　延宝七年十二月十七日家督を継
○天和元年十二月廿一日より御目見○元
禄九年七月二日病免○宝永四年

女子
細井九左衛門政次妻

十二月十四日務を辞し享保七年五月廿七日
死す年七十九法名可休
妻は渡辺弥右衛門某か女後今井又左衛門政昌か女

政次　今井又左衛門
母は政昌か女
宝永四年十二月十四日御目見
六月四日小十人組に入○享保九年十一月五日
西丸に附○同十二年五月廿八日
勤め老て後御番を辞○同十四年九月十日
同所にて廣敷番となる○同十九年六月朔日

尚伯　内藤五左衛門孫次郎
永井孫右衛門尚賢か養子

女子
某市右衛門賢明妻

正直　又之丞
根岸又左衛門政勝養子

女子
溝口彦之丞信證妻

四男嘉居但以○宝暦二年正月廿八日老免

寛政 今○同年十二月廿日死ス 時年六十 葬清岩

恵璦 妻ハ細井九左衛門政次ノ女 後妻ハ両宮勘左衛門某ノ女

載肥（ノリヨシ） 今井半三郎 半次郎

實ハ市川又左衛門忠政四男 母ハ権兵衛次女 載肥次ノ養子トナル

享保十八年七月八日生ル○同年十二月十二日初見ノ○寛延二年十二月廿六日大番○宝暦二年二月廿日父ノ死ニ因テ同年十月十八日跡式相続○安永三年十二月七日死 年六十六 法名浄泰

女子 載肥ノ妻

女子 竹村与兵衛某仁甫ノ妻

同下宮家葬

妻ハ化次ノ女

来 又吉 宝暦六年十二月廿五日初見ノ明和三年正月十一日

今井半次郎 妻ハ横野六左衛門教国ノ女

次明

高田 實ハ川口文十郎尹當二男 母ハ今見又左衛門女 載肥ノ養子トナル

明和六年十月廿日○同七年正月廿日初見○安永四年十二月廿日大番

○享和二年○文化八年○同十四年十二月八日病死

之義 平十郎 母ハ某氏

女子

之路 又三郎

源姓　等七郎様ニ付

今井　家紋 剣菱 花菱

族ヨ

右ハ房光寛政ヨリ
甲府御目見ニ
武田ノ子孫ト云

武田信繁ヨリ代後若太夫弟三男

弘信　今井若次郎　源之助

宝永元年
文昭院殿西丸ノ御書院
同年御番十七歳ニテ入被召
ニテ出仕ヨリ月光院殿方
又ハ蓮浄院附属ニテ

元禄七戌年桜田御殿御書院ノ宝永六

四十俵三人扶持

丑年十月十九日

蓮浄院殿附ノ

享保十五戌年十二月廿九日死五十四歳

同白蓮花寺ニ葬

宝暦十三年六月廿六日家督
同年明和七年七月十八日
同所有人安永元年
六月十八日小普請入
同年九月廿七日
　　　　　　　　[illegible]

信安　今井三右衛門　後号松之助

享保十六亥年三月二日家督○同
年九月二日　華澤院殿御霊屋[illegible]
[illegible]
同○宝暦元未年六月十九日病気ニ付御役御免
同年七月十五日死　七十三歳　同日文法名日昔

明和八年三月廿九日
御[illegible]淨明院殿[illegible]
天明元丑年十月八日[illegible]
[illegible]

信温　早世　今井右門　高七十俵五人扶持

信栄　母ハ某氏　信四郎

天明元丑年十月廿八日家督小普請入免許

四十五年四月廿五日[illegible]

同十一未年十二月八日[illegible]○文化十一戌年七月
十六日小普請入組頭[illegible]○同十五寅年二月[illegible]

信明　主　善四郎

母ハ某氏

信房　明　貞次郎

信発　[illegible]

[illegible]○[illegible]元[illegible]組[illegible]

○寛文元丑九月十六日[illegible]

○同十一亥十二月六日死　甲府[illegible]　五十一歳

〇宝暦十三年六月廿四日家督
同五明和七年七月十八日
同所御番入安永元年
六月十八日小普請入
同年九月廿七日退
 
信安　今井岩太郎
　　　後 某之助

享保十六亥年二月二日家督〇同年九月二日
某澤院殿御目見〇同
〇寛政元酉年四月十九日病死八十二歳

源姓
今井

今井太郎作惟義十三代
家紋 丸ニ三ツ引
三百俵
今井新左衛門貞政次男

蕃勝（シゲカツ）　初左衛門

安永二巳年十月廿二日竹橋御殿へ出
同年…〇…元年…組入
〇寛文元丑年九月十六日…百
〇同十一亥年十二月六日死五十歳

実父 [illegible]年 慶九郎 初 次郎左衛門

蕃貞

寛文十一亥 十二月廿六日 吉子 [illegible] 家督 [illegible]

月十二年 [illegible] 初 [illegible] 延宝七年 [illegible] 甲府 [illegible] 除 [illegible]

天和元年八月十二日 [illegible]

〇元禄五年十一月 [illegible]

[illegible] 百俵 [illegible] 月十二年五月 [illegible]

十 [illegible] 月 [illegible]

宝永二 [illegible]

年二月廿六日 西丸 [illegible]

[illegible] 日 四年 [illegible]

十月 西丸 [illegible]

享保 [illegible] 年 [illegible]

正徳四年九月四日 [illegible] 享保六年八月十六日 致仕 同十二年十二月十五日 死 [illegible]

年 [illegible]

末 迎 [illegible]

家 [illegible]

信庸 [illegible]

享保二酉 八月十六日 [illegible]

同二年四月廿二日 [illegible] 同六年十二月廿日 [illegible]

十二月十六日 [illegible] 死 七十年

宝暦九年十 [illegible]

昌 [illegible] 初 [illegible] 次郎

寛延二巳 [illegible]

父子 [illegible] 同 [illegible] 九年 [illegible] 七月 [illegible] 死 八十 [illegible]

昌好 安次郎 後 [illegible] 左衛門

[illegible] 辨次郎 十三郎

女子 [illegible] 妻

女子 [illegible] 妻

女子 [illegible] 妻

女子

女子

[illegible]

女子

附時
寛政十年九月十六日
濃州勝川[illegible]
[illegible]
[illegible]

上御定
[illegible]

山口政次郎衛良之養子

天明七未二月三日[illegible]時ニ二十
寛政五年十二月十一日[illegible]
[illegible]同年[illegible]同六年四月
十二日[illegible]同七年十二月十七日[illegible]
同九年[illegible]文化元年[illegible]同十年九月十六日[illegible]
[illegible]十六日[illegible]

某実 安次郎
母ハ後卿之女

女子

新羅三郎[illegible]家[illegible]武田[illegible]
[illegible]甲斐國今井村ニ[illegible]武田[illegible]
[illegible]

源姓
今井

高二百俵

新羅三郎義光ヨリ出武田陸奥守信義
後胤甲斐國住人今井織部信通嫡子

信盛
今井小之助
母 不知
妻 板坂江戸[illegible]女
[illegible]大坂[illegible]ニ後

東照宮様御代ヨリ [illegible]
[illegible]

大猷院様御代 寛永十三年十二月 林小重郎女二宮上ル為 附於[illegible]山
州相良二百石 御扶米下 頂戴ヿ 寛永十六
卯年十二月十四日病死 [illegible] 百石 [illegible]
寺ニ葬
右 [illegible] 信氏ニ代ニ続文

[illegible]
[illegible] 百 [illegible]

信氏 今井刑部左衛門 初 友之助 後仕号 刑部亦
母ハ [illegible]
父信重病死後幼年ニ付 [illegible] 父 [illegible] 可
寛永十七年十二月十 [illegible] 廣米百石
[illegible] 切 [illegible] 百七拾俵 [illegible]
信之 [illegible]

寛文元年十二月
十七 二百俵 [illegible]

貞享 [illegible] 年 [illegible] 月
[illegible]

[illegible] 寛文八 年十月 [illegible] 日
[illegible] 十 [illegible] 六 [illegible] 御 [illegible] 年 [illegible]
寛文元年十二月十三 [illegible] 元禄十二 年
[illegible] 貞享 [illegible] 年十 [illegible]
三月廿日病死七十 [illegible]
[illegible] 法名 淨運

信成 [illegible] 新 [illegible] 後 [illegible]
[illegible]
貞享三年 [illegible] 元禄二年 [illegible] 月 [illegible]
[illegible] 家絶

則房 今井 [illegible] 石 [illegible] 武田 [illegible] 祖
於 [illegible] 田 御 [illegible]

[illegible]
法名 [illegible]
右 [illegible]

実ハ今井小左衛門某之二男
今井八郎左衛門 初 岩之助 三百俵

政時

母 板坂江下某女

妻 不知

寛永十四年
清揚院様江附 於桜田 御広敷新規被召出 御蔵米小十人組

寛文九己酉年閏十月十八日病死 歳三十二 武

芝何毎院山中ニ葬

実ハ深谷某之男 今井八郎左衛門 二男
初 半平

信興

葬地不知

実母 石川孫之丞某女

中府某父 妻 深谷某 某女

寛文九己酉年閏十月廿五日不知 某子○同年十二月

十八日家督被 桜田 御広敷下○延宝四丙辰年月日

不知

清揚院様小十人○元禄四辛未年十二月十八日

小十人組○同十一戊寅年十二月廿一日[illegible]

文 [illegible]

[illegible]

○文昭院様西丸江御入之節御供○宝永元甲申
年十二月廿三日西丸御広敷○御用人被仰付九月廿五
日御用人○宝永六己丑年十二月廿五日
文昭院様御本丸江御移徙之節御広敷御用人○同七
庚寅年十二月十九日御加増百俵被下都合三
百俵○享保己亥年六月廿八日御広敷御用
御役御免 御先手御構無之小普請

同人今宮拝領仕候十二月廿八日御免○同九甲辰年
十月十九日隠居○同十八癸丑年十月三日病死
七十歳 法名 中昌林院 浄土宗 法然寺

女子
女子 馬場 今井織部
信吉 初 熊之助 今帯刀
母 深谷兵右衛門盛恵女
妻 林 兵右衛門正信女
宝永三丙戌年十月朔日 御目見○時ニ十歳

有徳院様御代享保九甲辰年七月十九日家督
小普請○同十二丁未年三月廿七日小十人組○同十三
戊申年二月廿六日西丸新御番○元文二丁巳年
閏十一月廿二日
大御所様附○寛保元辛酉年十一月十二日元方
御金奉行○宝暦七丁丑年九月朔日病死
六拾弐歳因寺ニ葬法名道栄
妻 小普請組 石清原与左衛門政[illegible]娘

女子
信脩 今井半蔵 寛保二年三月二十三日初而 有徳院殿江御目見 宝暦元未年
部屋住ニ而病死 六月二十日父ニ先立卒ス 年二十一
要 林 大蔵
女子 林兵左衛門正能妻
女子
正信 山本勘次郎
信由 小普請 山本次郎八正良ノ養子
実ハ大御番新見十郎正命三男
今井小三郎
今名信儀

養母 林左兵衛正行女

実母 松平勘十郎忠隆女

妻 養父信旨女

後妻 水野三教島正博女

宝暦元辛未年九月十日家督 同二壬申年

三月十八日 御目見 同七丁丑年十二月二日家

督小普請 同八戊寅年八月十六日西丸御膳番

〇安永元壬辰年十一月 同九庚子年 西丸御役

御勤毎年十一月 〇天明元辛丑年

七月十九日見切 寛政九年三月

依病免 〇享和元酉年三月廿日隠居 〇文化五辰年

八月十日卒

女子 養子信由妻

信尊

実兄南山?郎二男 今井武助

安永三甲午年十二月 〇天明元

辛丑年十二月廿七日 御目見 〇寛政二年

宝暦年九月廿六日紀伊殿より大番に列し切米百
俵を賜ふ同年十二月家を継（父生存なり）四年五月小笠原組
安永二年二月十六日寛政元年二月八年五月将軍家
天明二年二月廿二日寛政元年二月八年二月廿八日
寛政四年五月廿三日婚姻二月廿二日延享同年九月
同九年大納言二月七年五月十二月婚姻二月十六日金二枚

女子 後某の妻

女子 酒依茂左衛門昌旺が妻

信敬 武之助 母は安久の女

巻第三百六

源姓

今井 紋 檜扇 寛永系図 本家 檜扇

按

寛永系図に清和源氏に収め今井四郎兼平が末流とし、今井の家紋をもって系譜に載す。本末のこと詳ならず、家紋もとより異なれり。寛永系図に佐々木が庶流とし、中原氏兼遠が後胤とするは誤りなり。中原氏の説と源氏の説とは同じからず、今両説を記して後考を俟つ。

宇多天皇八皇子敦実親王之嫡流

佐々木廢流中務信貞流

今井桐横家信定今井市郎氏 信貞氏今井の後

孫今井新兵衛氏胤

宣案 久秀 今井彦兵衛 幼名 判 家人 法名

母ニ而

書写 冨田同郷ゟ沖村母

故ニ而父之家江帰シ津田氏ニ嫁シ男子生ル其後

織田信長ニ属シ其父之家業ヲ捨テ再嫁シ

無間信長之後摩迎ニ揚ル信長公郡ゟ

百姓之子四男ニ生ル仕其父ニ改名改メ

井ト名乗ル其後ハ中川ニ而家系嗣ス久秀

武野紹鴎冨田信子之後嫁久秀 冨田同郷ゟ沖村一如ノ実母ニ而嫁家

我等叢書ニ織田信長御筆蹟相見候ニ付

菊筆一相仕候ニ付村宗久此ニ任大名伝来

相見候哉御書判之御書頂戴仕今ニ所持仕候

右 御書写

前札被聞候得共為

年頃御所持之候一通

遠路以無御座候ニ付清書

候得共相改候得ハ

右之證文之

二月十三日家康御書判

大龍山法印

無月日也　然処家久被病死候ニ付而

武田ニ而百石内五十石ハ上ヶ之残五十石子

孫相続被下置候　其後延宝二年八月

廿日病死七拾六歳泉州堺向泉寺葬

寛永
葉久
久衛　今井帯刀屋敷　御奉行　相勤申候　宗小葉

母　武田同帳与沖村女

妻　不知

故有之泉州堺ニ住居仕候ニ付

権現様ニ　御目見仕　御茶道　御側近

御奉公仕候　御書判之御書頂戴今ニ所持

猶右　御書写

其方儀去年ゟ大坂ニ
而母人尽し候旨相聞ヘ一段
之事ニ候猶可被申候
極月十日　家康御書判

今井宗薫へ

右御書ハ宗薫殿
家ニ有之ものしれ

其元へ早々被罷越
之段何事も相調
宗休ニ申含候法印安
義能次第ニ而可被申候
長々御懇之段候

九月九日　家康御書判

宗薫

右源院様御判物并御書頂戴今ニ所持仕候右

御書写

右者信郷倉山様

判形被成候大久保

相模守ニてかしくや

極月廿七日　秀忠御書判

宗薫

慶長二戊戌年秀吉遺言之後八年諸大名

縁組停止有之候ニ付　慶長四年正月

権現様宗薫を以石川数正様ニ松平

陸奥守政宗娘ニ御縁組被成候為取持

仕上候ニ付則忠輝様江被仰付

大坂御陣之節上方筋証拠被成御感

之通御座候付而

検校様御組頭役儀被為蒙仰候 御目見
仕候 御満願之節ニ罷出 上意ニ○
同十九甲寅年十月廿六日 摂州住吉郡喜連
山村ニ而三百石為加増御宛行都合千
石ニ成候○同年十月廿六日伊豆殿宗門奉行
被仰付候 能勢伊豆文左衛門 相勤候
家督之節御頭役之儀被仰付候 右能勢文左衛門松平信濃守家臣

其内日光東照宮御参詣
追而被召出相勤候○大坂御城中江被召出相勤候
御城中御番衆之内松平信濃守家臣
先年被成御座候節御代官被仰付
仕○同年十月廿六日大坂御城代被仰付
御在府之節所御奉行 葉山小左衛門
家督之儀ニ付被仰付候 寛文年月日

権現様御軍用可奉以自由ニ存外以無隠
大坂ニ而同年十二月十二日之夜大坂より
玄蕃方宿ニ蕃寄在之同勝平ニ懐ニ来り候旨
家業之父子大坂ニ而就補院ニ而致り罷之而
織田有楽殿之被遣ニ而之猶以付可保之候
候ニ而高野山江退籠居○元和元卯年十月
直高野山ニ而御当出ニ而相下候則当京御側迄

御奉公仕候ニ付出合之而罷仕候○御復世之
後懐宿濃ニ而取候之御実今之而罷仕候
○老衰ニ付寂楽之御代 以来ニ而被之而生
之後貝於ハ以御出ニ而親ニ付懐近為之候料
訓加之以親之死仕候○元和之丁巳年八月廿九日
台徳院様御出来而頂戴今之而罷仕候右御朱印
写

攝津國矢部郡小山田村
千石同郡古里小野
参百石都合千参百石
右事如先々可全知行
不可有相違者也
元和二
六月廿八日　御朱印
今井宗薫

○年號月日ハ無之宗薫父宗久事御受仕候有
権現様ゟ此書事ニ候ゟ武蔵紀路ゟ今井
宗久同宗薫ゟ議浅ゟ宗薫ニ同
権現様御代年月日無之
一　玉澗波之繪　一　瑞溪竹葉抄
右二点今井宗薫献上仕候寛永四丁卯年
四月十一日病死七拾以来同年ニ宗薫

紹鴎所持
一　九重茶入

同断
一　井戸茶碗　二ツ　東方納
　　　　　　　　　　西方母
　寛永十四丑年
　松平信濃守より被下候由

同断
一　濡鳥之絵　古芸筆
　　宗丹上表

同断
一　珠光所持
　　平瀬之絵

右之通只今ニ茶器今ニ所持仕候

茶湯　今井平左衛門　彦八郎　号宗呑

母　菜氏
妻　若松氏

寛永四丁卯年八月ニ家督被仰付父跡知行
高四百石被下置候付御取立被仰付○之年月
日之儀家督被仰付候也
台徳院様より御目見仕○之後御時之寅年より

以上右井大納言殿より　御茶之湯之道具右家
寛永以後信長公御所以○年月日不知
右徳川様於　御茶之湯事江戸ニ而御道具
被　御山崎澤之信長公ト右得大作之武野紹鷗ヵ
譲請持傳来ニ葉茶壺之内也
右徳川様江献上之品

一　古銅花入　一　紹鷗茄子茶入

一　瓢箪肩衝茶入
一　松島葉茶壺　一　開山六徳
一　シメキリ水指　一　珠徳象牙茶杓
一　紹鷗火箸
　　結合之品
○寛永十癸酉年六月八日病死之後右様御家来内
寺之并法名紹紹

兼續　今井新右衛門　長右衛門

母　某氏

妻　某氏

寛永十癸酉年月日亡父家督被相續父附知行

不残被下置家督被相續候○慶安二己丑年

二月中御小納戸一條御役被仰付○萬治三庚子年

年十二月十五日依老衰隠居被仰付○寛文元

辛丑年八月十四日京都大佛殿御普請奉行

○同二壬寅年九月廿八日蓮華王院三十三間

堂修復奉行○寛文六丙午年九月十日

病死法名某家督被相續候江戸三番町某寺　年五十

子　親　京都町奉行宮崎若狭守重成組　今井七郎兵衛婿　初兼備

養母 某氏
実母 安藤備前守附某女
妻 岩瀬八兵衛女

寛文六丙午年十二月十七日舞長田中島勘解由
父村上科左衛門組子紀伊家臣縫殿助○同七丁未
年正月十日江戸にて生 同年閏二月廿日
継目御礼御目見同年四月廿日御勘定
頃二ノ村蔵○同八年大納言殿御書院番 月

家ヲ天和二年[illegible]
[illegible]
元禄二年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一
同江戸御番○同九己酉年十二月廿九日京都
大番小姓組白河殿大和大坂御書院番
御蔵奉行○同十二辛亥年正月廿日大坂御目見
御蔵奉行御書院番奉行○天和二壬戌年四月
廿九日御役御免○元禄二己巳年
十月廿七日 奉行 御免○同七甲戌年六月廿日病死
法名 宗海 浅草 宗慶
嫡子 養子 婦観妻

好澄　今井七九郎

母　今井長兵衛[illegible]女

[illegible]妻

元文七[illegible]年[illegible]月[illegible]家督[illegible]今村[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛政八年二月十八日[illegible]今井七九郎[illegible]

一[illegible]

○同八[illegible]年[illegible]二月十八日[illegible]

[illegible]享保元[illegible]年十二月[illegible]隠居[illegible]

十[illegible]同年八月[illegible]病死[illegible]

[illegible]家督

久雄　[illegible]七郎左衛門[illegible]

好昌　今井帯刀　初小次郎　[illegible]隠居[illegible]帯刀

養母　無し

実母　家女

妻　岩父　好清長女

正徳六年四月十五日

御目見[redacted]中　享保元丙申年十一月

家督相続小普請入○同月十五日御目見仕○

同七壬寅年十二月十九日火事場見廻○延享

元甲子年八月廿五日大火事場見廻御免○同

三丙寅年十二月二日小普請入其後依病気辞

○寛延二己巳年二月朔日御役御免

十二月廿八日卒

○同年九月廿七日来年四月日光山へ

大猷院様百回　御忌御法事之節御用掛○

同年十二月十八日御赦○同三庚午年二月

廿日日光山ニ而御法事御用済

廿日御用相済○同月十六日日光御法事

御用骨折候ニ付時服二被下○宝暦四甲戌

年閏二月廿六日没ス歳〇〇月廿七日養父
年十一月十日願之〇同六甲子年四月廿二日
病死ニ付法名栄周年二十九才法名宗鱗

養女　実ハ小出若狭守貞則之女好澄ニ養ハレ好昌ニ妻ス
　養子好昌妻

某　今井刑部　早世
　部屋住ニ而病死

女子　三枝傳蔵守経之妻

好教　実ハ今井勝右衛門信与次男
　今井帯刀　初亀六郎　長次郎
　養母今井七九郎好澄養女
　実母家女
　妻　養父好教女
　高千三百石摂津国
享保二十乙卯年四月廿六日解由子〇寛
延二己巳年三月廿八日
惇信院様江　御目見〇同三庚午年正月廿日

年於山里 城○寶暦十一辛巳年正月十日
家督出書（同年九月廿八日家基ト改名　時ニ三十歳）○同六丙子年五月廿一日西丸出書
院番○同十庚辰年正月御免
惇信院様上ニ為附○同十一辛巳年六月十二日
薨御ニ付同年八月六日唯今ニ而西丸書
院番○同十二壬午年十二月十六日
孝恭院様ニ為附○安永八己亥年二月廿四日
薨御ニ付同年正月廿六日唯今ニ而西丸

御書院番○天明元辛丑年閏五月十九日
慈君様ニ為附○同六丙午年閏十月廿日唯今
様御死去ニ付両丸出書院番○寛政
二庚戌年正月廿二日西丸出書院番○同八年十二月
十日西丸附○同十年正月廿八日ニ而死去
（寛政元酉年十二月十六日ニ而御番入）

女子貳人　三枝右衛門守信書
女子　好前妻

女子　川田六郎左衛門貞與妻

好周　今井江馬　千六百石　寿庵号

母ハ牧昌之女

寛政二庚戌年十月廿八日小性組組頭切米三百俵（卅五歳）

同七年三月五日奉務　同年九月廿四日大納言付　二

妻ハ松平[illegible]之養女　小性組川田江馬貞陣之女

女子二人　小普請　川田幸次郎貞興妻

[illegible]離別

好之　母ハ[illegible]養女　子六八郎　長次郎

女子　女子

某　子六八郎

始之

曽祖　日置[illegible]

[illegible]

藤原氏　菅原姓

今井

[illegible]

信長之[illegible]今井苗字[illegible]源人[illegible]

[illegible]

兼光　今井九左衛門

母

[illegible]

[illegible]

慶長九甲辰年六月朔日江戸に於て御
代官に被仰付寛永十八辛巳年十二月廿六日病死
葬地不知法名浄安寺に葬 法名浄圓

実系
昌忠
兼末　今井九兵衛　初 平兵衛

母
書上 不知

慶長十九甲寅年七月朔日家督
元卯年七月朔日家督御代官被仰付寛文元子

年二月廿日病死葬地不知葬同寺 法名浄圓

実系
忠昌
兼行　今井九兵衛　初 平兵衛 後九兵衛

母
書上 不知

寛文元子年九月十日家督
延宝年九月十二日御目見
寛永御代官被仰付元禄年七月二十日病死葬
不知同所に葬 法名浄鐵

某ハより□□□□□□

藤直 今廿九歳 初 □□□□ 一 □□□

母 家女

書ニ而

万治三子年二月廿八日家督小普請ニ而相勤申候
□□□年二月□日□□□御代官□□□□
寛文□年□月□日□□□□□寛永二戌年
三月廿□日病死□□法名□□□□□□

藤豊 今廿九歳 初 □□□□ 一 □□郎

母 某氏

書 □□□□□□□□□□□□□

寛永十一戌年六月廿七日父病死ニ付父九歳ニ而
家督之□相勤申候□□□□□□
□□之□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□
二月九日□□□家督小普請入□□□□十二未年
三月廿七日□□□□□□□□□□□四月□□
老免小普請入今ニ相勤申候同年四月十七日病
死七拾歳深川新町□□□□□□□

法名 □□□□

四 三 壱
[illegible]

葉茂 今井三之丞
母 実ハ[illegible]女
妻 [illegible]

宝暦二申年十二月廿七日新番信濃守組ゟ切米百俵拾人扶持ニ而召出、安永年七月十二日家督
同九卯年正月廿七日病死、三[illegible]寺

葬 [illegible]

葉程 実ハ葉茂子 今井幸次郎

葉程 今井幸次郎
母 実ハ女
妻 中根[illegible]女

宝暦九卯年正月四日生、家督小普請
同十辰年正月廿三日西丸小十人組ニ同十一巳年
九月廿八日病免小普請、同天明八申年七月廿
六日隠居、文化九申年九月八日病死

一
某満　今井九左衛門　初 市之丞　後 五三郎
母 [illegible]女
妻 某氏　高 [illegible] 百俵
元禄八申年七月廿二日家督小普請 [illegible] 寛政四年
[illegible]
女子二人 [illegible]
中根 [illegible]
二 某 [illegible]
三 某 [illegible]



家ノ先祖誰 [illegible] 池原雲伯良誠 [illegible]

一 菅原姓　高百六十俵
紋 九ノ [illegible]
池原 先祖不詳
森 元昌
蕃然 松平加賀守家来
端郷 森雲安 細川越中守家来
良善 池原雲積

町醫師ゟ出立當字池原ゟ改申候

御目見醫師実ハ中村順庵次男 池原長仙院雲伯法印

良誠

安永二年十二月相願初人

浚明院様御代安永同三年十一月廿一日新規於

西御切米弐百俵被下奥醫師〇同年

閏十二月廿六日法眼〇同五申年四月廿一日日光

御社参御供〇同年五月日光御供出精

出勤御褒美被下〇同年六月十八日

孝恭院様御麻疹中御用ニ付白銀御褒美

二枚被下〇同年十二月御加増被下〇同六酉年

十月御参内之節ゟ格別御用相勤候ニ付

同月廿一日

格別ニ付 思召白銀拾枚

悉皆相勤候ニ付被下〇同七戌年十二月廿一日卒

同七年十二月七日御匂ひ

[illegible]

思召 此召御附藏ゟ十一日八寛文年十二月十二日
法下ノ同九子年十二月十八日御藏 御幼九日 （九月四日任前[illegible]）
天和元酉年十二月廿一日 御役御勤ニ付
年々今般被相願天和二戌年七月十九日
病死 七十三歳 法名[illegible]
妻ハ細川越中守殿家 松本数右衛門ノ女

某

良明
右衛門 池原雲見 早世
安永五年八月廿六日 幼名 同八年四月十日死 二十九歳
妻ハ[illegible]丘長ノ女

女子 良緘養女

良貴 無藏

女子 良明養女

起郷 雲超

女子 良明養女

養父[illegible]
廣歡[illegible]

[illegible]同六年七月[illegible]病死[illegible]

思召　以後御懇意之旨同八亥年十二月廿七日

法印　同九子年十二月八日卒　行年八十四

女子　○○妻

女子　良明養女

男　貞後

遊蔵

女子

男　良誠養女

女子　大奥に勤ル後田安殿附となる

女子

女子　森雲稲垣光妻

女子　山本宗英惟直妻

女子

多子

子明　法眼

母ハ久寿之女　妻ハ山本宗洪直之女

寄合医師

後藤福井代安永八亥年八月廿一日始而
御目見

同九子年十一月十一日御目見

（三十八歳）

寄合医師　同年十二月十八日法眼

天明五巳年七月十五日父病死

二付家督寄合医師

同六午年七月

男子　永之助

瑞成　印巻　良仏　余語古巻瑞弥養子

男子　定云

男子　大五郎

女子　実ハ良明之女良誠に養はれ廣歡妻となる

めくれず

国立公文書館
National Archives of Japan

同年九月八日[illegible]

師日同年閏十月廿日[illegible]同月八ト

申年正月廿六日病死家督○寛政十年十一月

廿九日隠居 時年四十七歳

寛政十年十一月
廿九日 雲泊 雪塚
三之三百俵之内百六十俵[illegible]相続

甚[illegible]（ジンアヤ） 母ハ直三之女 洲本小雲塚

寛政十年十一月廿九日家督蔵米二百五十俵[illegible]

小普請組入 時年廿七歳

女子

女子 実ハ良助ヵ女子明ニ養ス後ニ神田[illegible]将武妻ト成

女子 実ハ良助ヵ女子明ヵ養女ト成

内閣文庫

国立公文書館 National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan